2012 年　6 月 4 日・京都新聞「詩歌の本棚（新刊評）」欄では

真田かずこ『奥琵琶湖の細波』

　真田かずこ『奥琵琶湖の細波』（コールサック社）は、五年前に憧れの琵琶湖に念願の定住を果たした著者の、湖へのオマージュ。「私はこの地へ『来た者』ではなく、『戻ってきた者』のような気がしてならない。」（「あとがきに代えて」）その回帰の喜びが、詩に音律やリフレインの波を呼び起こした。詩を書くことで、湖は著者の蘇生の「光景」となった。
　「ただただ　湖を眺めて暮すことは可能だろうか／夜明けまえ　漁舟が静かに視界を横切っていくのを／お日様の黄金の道が　湖面を走ってやってくるのを／水辺の柳はみどりに霞み　桜の花びらが波形にただようのを」（「奥琵琶湖」）
（河津聖恵）

と紹介されています。